

私のリビングウィル（事前意思表示書）の記載にあたっての説明書

もしもの時、ご自身の価値観を尊重した医療やケアを受けるための参考としていただくために「私のリビングウィル（事前意思表示書）」を作成いたしました。「私のリビングウィル」は、患者様が自分らしい最期を迎えるための医療に対する希望を記載していただくものです。この「私のリビングウィル」は法的には意味がありませんし、強制力もありませんが、ご本人の意思が尊重されるという意味において必要と思われるので、今の気持ちを記入してください。又、これは、何時でも変更・更新できますので、記入したことが変わった時や誕生日等決めた日に定期的に見直しをしていただくことをお勧めします。是非「人生会議」の中でも活用してください。

1. 基本的な希望

痛みや苦痛・最期を迎えたい場所についてリビングウィルに記載している今の希望にチェックしてください。

最期まで続けたいこと：お気に入りの食事（朝はごはんのみそ汁等）、お酒等の嗜好品、散歩、好きなテレビ等や日課になっていること、趣味等を記入してください。

2. 終末期（最期）を迎えたときの希望の各項目の解釈

①. 心臓マッサージなどの心肺蘇生

・心肺蘇生とは、死が迫ったときに行われる、心臓マッサージ、気管挿管、気管切開、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与等の医療行為をいいます。

・心臓マッサージをすると、心臓が一時的に動き出すことがあります。

・気管挿管の場合、必ずしもすぐに人工呼吸器を装着する訳ではなく、多くの場合、手動のバック（アンビューバック）を連結して医療スタッフが呼吸補助をします。この行為により、一時的に呼吸が戻る場合があります。

②. 延命のための人工呼吸器

・延命のために人工呼吸器を装着後、終末期の疾患の違いにより、死亡するまでの期間は異なります。

③. 抗生物質の強力な使用

・通常の抗生剤治療で改善されない場合、さらに強力な抗生剤を投与することです。生命の危機を救うこともあります。抗生物質が効かない抗生物質耐性菌が増えてきてしまいます。

④. 輸血の使用

・輸血は他人の血液を自分の体に入れる治療です。体質に合わなかったり、病気がうつってしまったりする可能性もあります。輸血中や輸血後すぐに症状の出る副作用ばかりでなく、輸血から数日後、数週間後、数年から20年30年後に問題になる副作用もあります。

⑤. 胃ろう・鼻チューブによる栄養補給

・胃ろうとは、お腹から胃に管を通し、その管から栄養や水分などを流入するための処置をいいます。鼻チューブは、鼻から胃まで管を通し、そこから栄養や水分を流入することをいいます。

・事前に内視鏡と若干の器具を用い、局所麻酔下に開腹することなく栄養補給のための胃ろうを作る手術(経皮内視鏡的胃ろう造設術)を受ける必要があります。鼻チューブよりも一般的に管理しやすい方法です。

・胃ろうや鼻チューブでは、つねに栄養補給ができます。しかし、終末期の状態では供給された栄養を十分に体内に取り入れることができないため、徐々に低栄養になります。また、栄養剤が食道から口の中に逆流して肺炎を合併することがあります。

⑥. 点滴による水分の補給

・すぐに重度の脱水にならないようにできますが、栄養はほとんどなく次第に低栄養が進行します。

・このほかに太い静脈に点滴チューブを通し、より多くの栄養を持続的に入れる高カロリー輸液（IVH）という方法がありますが、胃ろうや鼻チューブでの栄養補給の時と同様、終末期では徐々に低栄養になります。また、点滴チューブを介した感染症を起こすことがあります。

⑦. 延命のための透析治療

・腎臓の機能が低下した場合に、腎臓の代わりに老廃物の除去と水分バランスを調整する治療をいいます。透析治療は、生命を維持に大きく関与し、従来では透析の対象とは考えられなかった患者の生命を延長することにも成功してきました。しかし、いったん治療を始めるとそれを中止することは倫理的に議論をされているところでもあります。